

病院紹介：挨拶（平成 28 年 1 月）

国立病院機構高知病院は旧国立高知病院と国立療養所東高知病院が統廃合され高度医療、臨床研究、教育研修、情報発信を病院の基本とした新国立高知病院として平成 12 年 10 月開院致しました。

平成 16 年 4 月から独立行政法人「国立病院機構」の病院となり、平成 27 年 4 月からは中期目標管理法人（非公務員型）となりました。病院の環境は変わりましたが病院の基本は変わることなく現在に引き継がれてきております。当院は高知市の西部に位置し 25 診療科を有し、がん、成育、免疫・アレルギー疾患、呼吸器疾患、骨運動器、腎疾患、重症心身障害に関する医療を中心に全ての診療科で専門性の高い医療を提供し地域医療連携にも意欲的に取り組んでおります。がん医療においては高知県がん診療連携推進病院に認定され、がん診療の中心施設として地域に貢献しています。また、災害拠点病院にも指定され災害医療にも取り組んでいます。

当院に設置された臨床研究部では免疫アレルギー疾患を中心に病気の解明と根拠に基づいた医療(EBM)を推進するための臨床的研究や、治療薬剤の早期臨床使用を目指した臨床治験にも積極的に参加しています。

高知病院が開院以来取り組んできていることに教育があります。次世代を担う医療スタッフの育成は当院に課された重要な課題です。教育研修機関として地域への情報発信を行い、卒後臨床研修病院として優れた医師の育成にも努めています。併設する附属看護学校では高度・専門医療に対応できる看護師を育て、薬学生、理学療法、検査や放射線の研修生、救急救命士などの研修も担っております。

これからも病院の存在意義を見失うことなく医療ニーズに応え地域医療に貢献したいと思っております。